中日ニュース
シネスコ版

高新 ニュース No.405
新愛媛ニュース No.233

No. 570　39.12.18

一、倒産

――東京・埼玉――

企業倒産三六一六件。十一月だけで五一八件。これは史上最高記録である。一枚岩を誇ってきた池田高度経済成長政策はオリンピックの年の瀬にしてついに内部破裂を生じたのである。

高度成長の掛け声に踊った日本経済。だが一度不況風が吹きまくるや、大幅な設備投資に酔っていた大企業が売り掛け金の回収、受取手形の期限短縮に迫られて、その鋒先を零細下請企業に向けたことから、中小企業間に相つぐ倒産が生じた。このため、下請企業は銀行に融資ワクの拡大を依頼する一方、経営規模を縮少するなど懸命に不況乗り切り策に頭を痛めたのである。こうした一触即発の現状で一企業のつまづきは関連企業に資金不足をもたらし、将棋倒しの倒産が重なるのである。こうして、次第に現実から裏切られ、押しまくられて、放慢経営というレッテルを貼られて破産する中小企業。大企業のシワ寄せを一身に背負い込み泣かされるのは経済構造の底辺にある中小企業なのである。

創立来五十余年、機械工具の老舗もこの類。取引会社の不渡りに端を発して三億七千万円の負債を出し、ついに倒れた。〃信用〃が〃不信〃に変った暗いてんまつだった。

一方、川一つへだてた鋳物の町川口は倒産嵐の吹き溜りだ。今年に入って既に三百件余が倒産した。ある鉄工所は十一月二十六日に不渡りを出して以来、労、使、債権者が三巴になって相剋。なかでも二十六人の従業員は明日の糧にもこと欠き、工場内の換金物を占拠籠城を続けている。経営者は昼夜の別なく金策にかけずりまわり、従業員とも落着いて話し合いさえ出来ないと嘆く。また債権者は未払い金を即時支払えと強腰である。従業員と債権者のはさみうちに経営者は〃誰の性なのか、私にも分らない〃とポツリ。このようなケースは川口市中にころがっている。キュウポラの町は今やスクラップの町と化してしまった。

こうした中去る十二月十二日台所製品で馴じみ深いある大手メーカーが会社更生法適用を申請。倒産ムードがついに家庭内に浸み込んだ形勢。

詰めかけた六百人の債権者につるしあげられて社長は頭をたれるだけ。下請業者の怒声は切れた生命の綱に必死に縋まろうとするもがきにも似ていた。債権者会議の招集された川口の鉄工所はやはり荒れている。

だが、従業員も経営者も巨大な経済構造の中に埋没した被害者なのである。この怒声がいつはてるとも、その解決は見い出されないだろう。

ここには一筋縄ではいかない産業体制が整備といった構造対策が具体的に打ち出されない限り、その解決はありえないだろう。

618F

製作　中部日本新聞　東京中日新聞
配給　北陸中日新聞　中日映画社
~~中部日本ニュース映画社~~